

# ひなまつりイベント

令和5年3月3日

ひな祭りイベントとして、皆でお雛様のタペストリーを作成しました。作ったタペストリーをお互いに見せ合いながら、メンバーさんのピアノ伴奏で「うれしいひな祭り」の歌を合唱しました。



## 奈良県の障害者施設 クラスタ「クラスター」第8波報告

クラスタは、6名以上とされています。⑥8 12/27 と⑧1 2/7 はふきのとうです。2件クラスタとして報告しています。

⑥7	10月 3日	7名	M	7名	⑦1	1月 5日	6名	M	4名	S	2名
⑥8	10月 21日	12名	M	7名 S 5名	⑦2	//	7名	M	6名	S	1名
⑥9	11月 9日	21名	M	8名 S13名	⑦3	1月 11日	46名	M31名	S15名		
⑦0	11月 2日	7名	M	5名 S 2名	⑦4	//	12名	M	9名	S	3名
⑦1	//	6名	M	3名 S 3名	⑦5	//	37名	M29名	S 8名		
⑦2	12月 7日	8名	M	1名 S 7名	⑦6	1月 13日	11名	M	9名	S	2名
⑦3	//	8名	M	5名 S 3名	⑦7	//	10名	M	7名	S	3名
⑦4	12月 16日	6名	M	2名 S 4名	⑦8	1月 18日	11名	M	6名	S	5名
⑦5	12月 23日	60名	M41名	S19名	⑦9	1月 24日	18名	M12名	S 6名		
⑦6	12月 27日	13名	M	8名 S 5名	⑧0	1月 27日	17名	M13名	S 4名		
⑦7	//	10名	M	6名 S 4名	⑧1	2月 7日	6名	M	5名	S	1名
⑦8	//	6名	M	4名 S 2名	⑧2	2月 13日	41名	M34名	S 7名		
⑦9	1月 5日	20名	M14名	S 6名	⑧3	2月 14日	15名	M	9名	S	6名
⑧0	//	39名	M32名	S 7名	⑧4	3月 7日	40名	M25名	S15名		

\*M:メンバー(利用者) S:スタッフ(職員)

編集人 社会福祉法人ふきのとう ふきのとう便り編集委員会  
 連絡先 〒632-0052 奈良県天理市柳本町 2036 番地 1 TEL 0743-67-1099 FAX 0743-84-7738  
 HP <http://www.fukinotou.or.jp/>  
 E-Mail fukinotou1099@fukinotou.or.jp  
 発行人 関西障害者定期刊行物協会  
 〒543-0015 大阪府大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4F 定価: 10円

# V D / W D イベント

令和5年3月10日

バレンタインとホワイトデーのイベントをしました。創作ではうさぎ年ということで、ゆらゆらうさぎを造りました。皆 個性的な作品が出来上がりました。

そのあとはパンケーキを造りました。とてもおいしくできました。大成功!!



## こんな女にしたのは一体だれだ...あの悪夢がふたたび...

昭和22年、空襲の爪痕もまだ生々しい東京は、戦争孤児、浮浪者、身を売る女性であふれていました。ある日、「長谷川乙女」を名乗る21歳の女性の投書が新聞に載りました。終戦で中国の奉天で従軍看護師をしていた彼女は、戦争で家と肉親を失い東京の上野に流れ着きました。仕事もなく、飢えのためたった一つのお握りをきっかけに身を売る女に堕ちてしまったそうです。



この記事を読んだ作詞家の清水みのは強い憤りに駆られ、この女性の面影を探し求めて夜の街を歩き回り、戦争と社会の不条理を告発した一編の詩『こんな女に誰がした』を書きあげました。作曲を依頼された利根一郎は、夜の女の行き場のない恨みと悲しみを見事なブルーに仕上げました。しかし、GHQ(連合軍総司令部)からこの曲名では日本人の反米感情を煽る恐れがあるとクレームが付き、『星の流れに』に変えました。当初この歌を淡谷のり子に歌わせようとしたが、『身を売る女の歌など歌えないわ』と断られ、お嬢さん歌手だった菊

## 社会福祉法人ふきのとう 理事 古泉 健二

池章子が歌うことになりました。翌年、田村泰次郎のベストセラー小説『肉体の門』の映画化に際し、この歌を挿入歌としたため、ヒットにより一層拍車がかかりました。『星の流れに』が生まれた同じ年、悲惨な戦争の反省を踏まえ、主権在民、戦争放棄などを柱とする新しい日本国憲法が制定されました。しかし、東西冷戦時代を迎えた昭和24年にはGHQの要求により警察予備隊(のちの自衛隊)が設置されました。朝鮮戦争、ベトナム戦争時代には日本やアメリカの極東軍事基地として、また軍需工場として重要な役割を果たしました。やがて自衛隊も世界有数の軍事力を保持するようになりました。近年は安倍内閣以降、集団的自衛権、自衛隊の海外派遣が容認されるなど、日本国憲法第9条の形骸化が急速に進んでいます。それでも日本は「戦争をしない国」として、世界の、特に東アジアの国々から一定の信頼を得てきました。しかし、今年岸田内閣は、5年間で軍事費を49兆円に増額し、敵基地攻撃兵器を導入することを閣議決定しました。この議案が国会を通過すれば日本は、アメリカ、中国に次ぐ世界第3位の軍事大国になり、「戦争をする国」へと大きく転換することになります。敵基地攻撃兵器について、政府はあくまでも抑止力だと説明していますが、アメリカに対する抑止力として核兵器の開発を続けるという北朝鮮の主張となら変わりません。いずれ日本をも核武装するつもりなのか。敵基地攻撃兵器として政府は長距離巡航

一九八四年八月二〇日 第三種郵便物承認 毎月(二・三・四・五・六の日)発行

ミサイルトマホーク (飛行距離3000 キロ・1 基 5.4億円) 400基前後をアメリカから購入するそうです。敵基地以外の本土への攻撃や、国際法違反である先制攻撃の恐れさえあります。

ロシアのウクライナ侵攻、北朝鮮の度重なるミサイル発射、中国の武力による台湾進攻の恐れなどを背景に日本の危機と軍事力増強をことさら煽り立てる風潮が見られます。他国の問題解決に平和的外交努力は必要ですが、軍事

## ふきのとうの動き

令和5年

- 1月 5日 新年会
- 1月 19日 天理ダム清掃
- 2月 8日・10日 機関車整備
- 2月 10日 AED講習



## ふきのとうのコロナ感染録

令和2年の初頭から始まった新型コロナウイルスの流行は3年が経過した現在においても社会に多大な影響を与え続けている。ふきのとうでも特別な対応を迫られた事案が今日まで4度あった。当時の様子を書き留めつつ、これらの経験を踏まえての所感を述べたい。

令和3年4月

スタッフM陽性・メンバーY濃厚接触 日中の生活介護事業所であるサントアースIIのスタッフMが自宅で発症した。まず保健所に連絡したが、なかなか電話がつかずかなり苦心した。ようやくつながった電話で状況を説明したところ、前日に昼食

通巻 12426 号 2023 年 4 月 11 日発行 (2) 介入が許されるものではありません。集団的自衛権に基づきアメリカの要求通りに台湾有事に係るようなことになれば、沖縄はもちろんアメリカの軍事基地のある青森、東京、神奈川、山口、長崎が真っ先に火の海になるでしょう。日本の本当の危機は一体何処にあるのかを冷静に考えなくてはなりません。「こんな女に誰がした」とうたわれた悲劇を二度と繰り返してはならないのです。

3月 3日 ひな祭りイベント

10日 バレンタイン・ホワイトデー 合同イベント

17日 天理ダム清掃

25日・26日 機関車整備

ため女性メンバー全員がグループホームで2週間の療養期間に入った。療養中はレッド、グレー、グリーンの三つにゾーンを区切って食事の時間をずらしたり、部屋からなるべく出ないように皆に声をかけたりするなどして、メンバーYと他者との接触を極力避けるように工夫した。

令和4年9月

メンバーF・M陽性

早朝に女性グループホームのメンバーF・Mが発熱し、女性スタッフのTとSが付き添い車移動でクリニック前裁を受診した。結果は陽性であった。陽性のメンバー2名と支援者として車に乗ったスタッフ2名がサントアースII (生活介護事業所) で10日間の療養生活を行った。10日間を同じ施設内で4名のみで過ごすことで、息の詰まる場面もあった。



令和4年12月

メンバーH・T・M・N スタッフM・F陽性 (当該利用者支援中に感染)

男性グループホームである第三ただきで発生しクラスター事案となった。メンバーはみなサントアースIIの利用者であった。療養期間中はメンバーH・T・Mはグループホームで過ごし、メンバーNは帰宅した。陰性であったメンバーKも帰宅した。グループホームでの昼夜の支援は、支援中に自らも感染した2名を含む3名の男性スタッフが交代で行った。感染者はみな比較的軽微な症状が軽く、症状軽減後はいつもと大きくは変わらない様子で生

活できていた。

令和5年1月

メンバーY・S・O・N・T スタッフN陽性 女性グループホームの入居者5名が次々に患し、クラスター事案となった。順次、日中の生活介護事業所であるサントアースIIに移動し療養期間を過ごした。療養中は2名の女性スタッフが常駐し、2名の男性スタッフが日中に通所し支援体制を組み、ある程度スムーズに対応できていた。ヒートショックと思われる症状で未明にトイレで倒れて緊急搬送された方や、嘔吐が続きなかなか症状が治まらない方がおられ、対応に追われることもあ



ったが、大きな混乱に至ることなく、症状が軽減してからは和やかな雰囲気でも過ごすことができていた。

所感

二年前に初めて体制を組んだ時は一名の濃厚接触者が出たのみで、PCR検査の結果も全員陰性であったが、隔離体制を二週間維持するなど今から考えるとかなりの厳戒体制であった。去年の九月以降は陽性者を完全に隔離したので、他のメンバーに感染が広がることなく通常通りに活動できた。しかし一方で、メンバーが普段生活しているグループホームとは違う施設に完全に隔離をしたことで、支援を行った職員に対する危険手当や夜勤手当と、物品の購入費などが高額になってしまった。これに対する国からの補助金が高齢者の介護施設と比して貧弱であり、費用のほとんどである200万円弱が法人からの持ち出しとなった。